

亀岡市 長澤農園

亀岡市では、ベテラン農家の師匠が研修生に「野菜づくりの技術と経営ノウハウ」を教え込み、この5年間に60人超が新規就農した。市内各地に新規就農者が定着している背景を探るため、中山間地域に“子育て夫婦”が移住した西別院町の長澤農園を訪ねた。

「農の雇用」で全力指導

施設野菜の技術と経営を伝授

研修後の独立も応援

を中心に経営を拡大。現在はガラス温室65坪でトマト、レタス、キュウリを生産し、大手スーパーの直売コーナーなどで有利に販売している。

農地利用最適化推進委員の長澤さんは、高齢化や後継者不在に悩む地域の現状を打開するため、数年前から「農の雇用事業」の研修指導者に就任。「1千万円稼げる農家に育てる」と約束し、後進の指導に全力を注いでいる。

長澤農園は33年前に長澤忠夫さん(73)がUターン就農し、トマトの水耕栽培

長澤農園で2年間研修して昨年独立した奥澤さん夫妻と昨年就職して研修中の白石さん夫妻を紹介する。

白石真也さん、暁子さん夫妻(写真)は子供3人と向日市から移住し、昨年5月から働き始めた。暁さんは正社員としてトマト、

施設野菜を勉強中

白石真也さん、暁子さん夫妻



レタスなどの選別、出荷作業に従事。真也さんは収穫作業や栽培管理に従事し、研修用ハウスでコマツナ栽培にも挑戦している。

「皆さんにお世話になったので、この地域に恩返しができるように頑張りたい」(暁子さん)「早く仕事を覚えて、奥澤さんと切磋琢磨(せっさたくま)しながら頑張りたい」(真也さん)と明るく前向きだ。

羽ばたけ!!

新規就農者

ハウレンソウ主軸に独立

奥澤義嗣さん、登喜さん夫妻



せ、「安定して稼げる野菜を80点の合格点でした」と農家をめざしている。「技術的に未熟で失敗が多く、師匠に教える請う毎日ですが、このハウレンソウと抱負を語る。」

市 ベテラン農家が育成支援 新規就農後の販売ルートも確保

解説

亀岡市内で新規就農者が増えた背景には、就農前の「ベテラン農家による研修・独立支援」と、就農後の「有利な販売先の確保」がある。

年間売り上げ2億円を超えるJA京都亀岡直売部会(会員58人)の中心メンバーが就農希望の研修生を育成し、直売部会の仲間と迎えて販売ルートを用意。新規就農者の大半がJA直売部会(西友や平和堂などの直売コーナー)と自ら開拓した取引先(京都市内の料飲店など)で市場出荷より有利に販売している。

奥澤義嗣さん、登喜さん夫妻(写真)は昨年6月、長澤農園の近所でハウス3棟(12坪)と水田(30坪)を借りて農業経営を開始した。6歳と1歳の1男1女を育てるため、ハウレンソウを主軸にミニトマトを組み合わせた